

松本城外堀跡 南外堀第3次調査

—松本城南・西外堀復元事業に伴う試掘調査—

1 調査の概要

- (1) 遺跡の所在 松本市丸の内4番1号
- (2) 調査の目的 松本城南・西外堀復元事業に伴う試掘調査
- (3) 調査期間 平成29年7月10日～実施中
- (4) 調査面積 平面積114㎡（トレンチD～I地点6か所の合計）

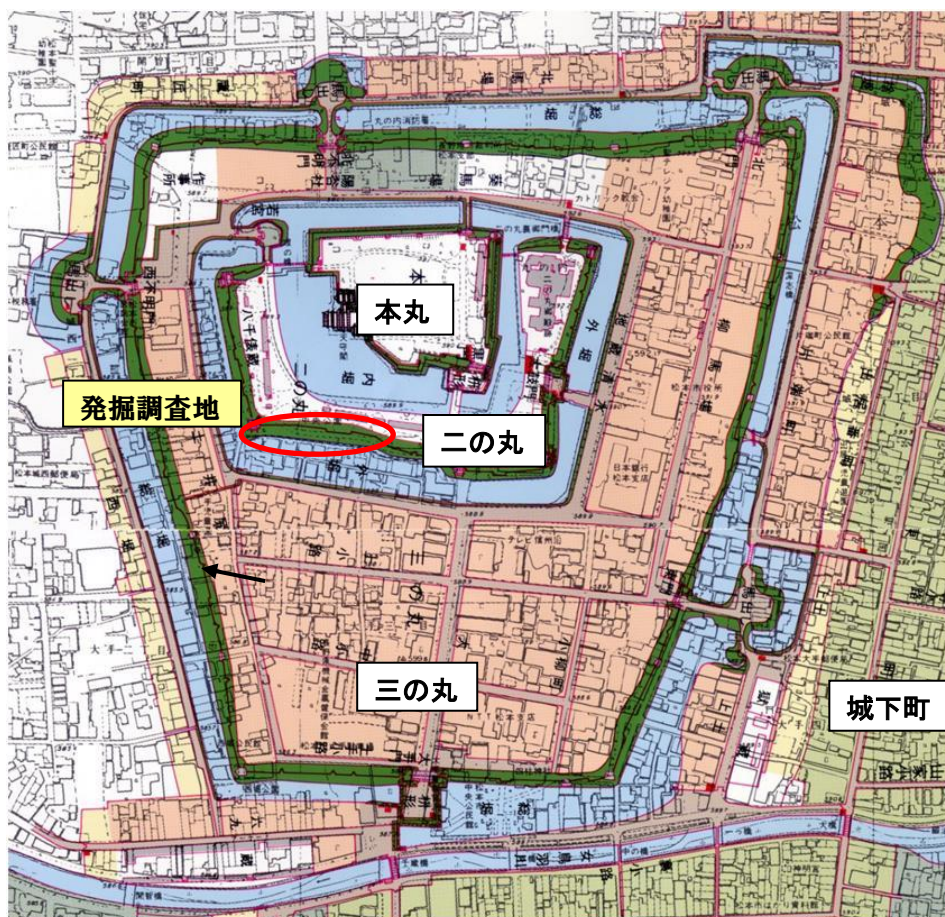
いよいよ調査開始！

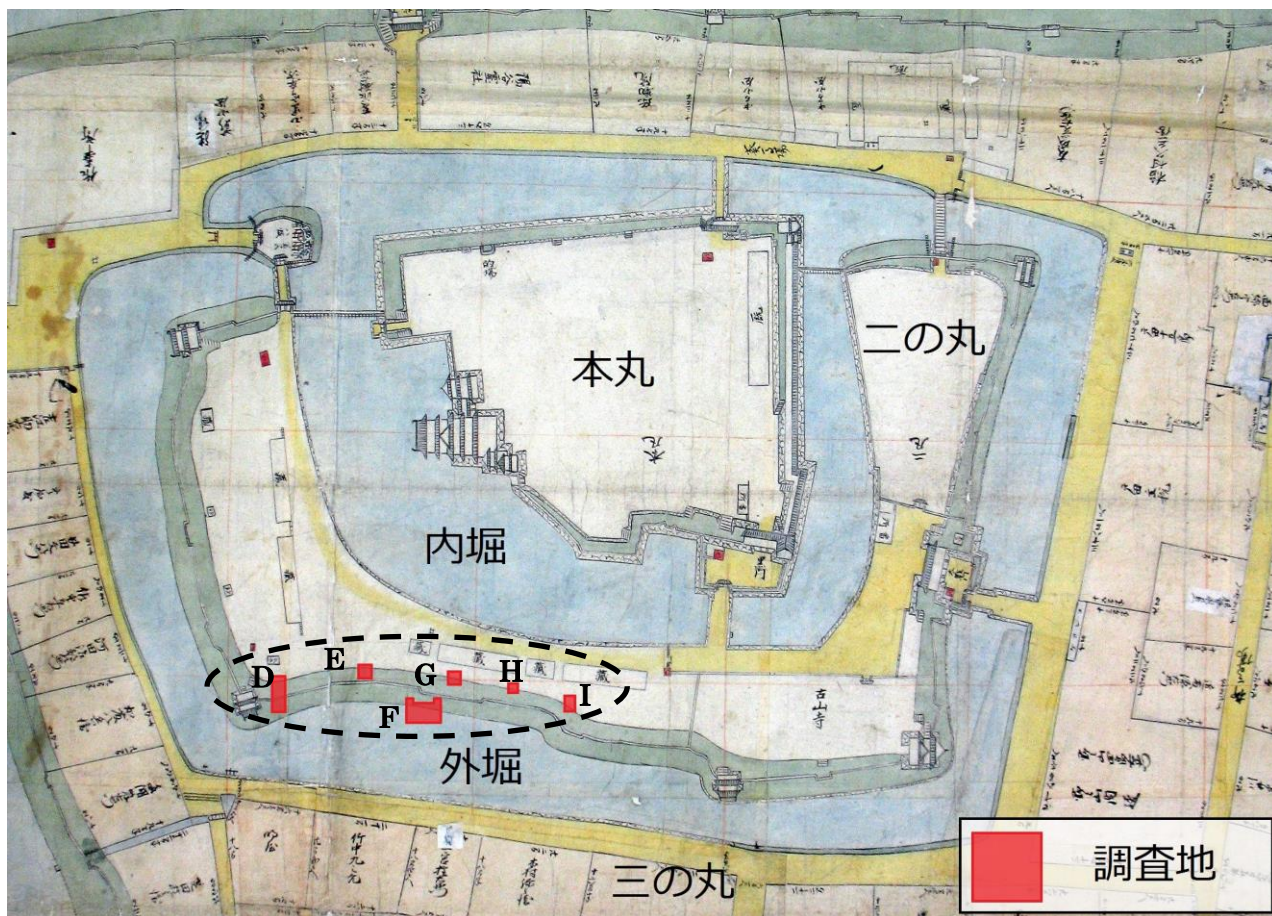


(5) 調査地の位置

松本城は本丸・二の丸・三の丸と、それぞれを囲む3重の堀（内堀・外堀・総堀）が設けられた城郭部分と、その外側に位置する城下町で構成されています。堀は、外敵の侵入を遮る防御的な機能のほか、武家地と町人地を区別する意味もありました。これらの堀は、明治維新後に近代化の流れの中で役目を終え、徐々に埋められていきました。南・西外堀は、大正8年（1918）頃から埋め立てが始まり、現在に至っています。

今回の調査は、埋められた南・西外堀の復元事業にあたり、南外堀や堀に関連する土塁の位置などを確認する目的で実施しました。





絵図上の調査地の位置 D～I 地点 享保十三年秋改松本城下絵図(1728)

2 調査の結果

(1) 松本城時代の調査結果

D 地点

調査の概要

外堀土塁の範囲確認のため、長さ9.2m、幅1.5mのトレンチ（試掘溝）を現地表から最深で2.3mまで掘削

調査成果

- ア 非常に細かな版築状の人為的な盛土層を確認。とても丁寧な盛り土
⇒二の丸と三の丸の2mの段差は、人為的な盛土で造成されてつくられていた
- イ 底面2.3mでは、まだ地山（自然堆積層）は確認できていない。

ウ 出土遺物

陶磁器・・・中国産（天目茶碗、青花碗）、瀬戸・美濃産（卸皿、灰釉碗、灰釉皿、黄瀬戸鉢）、平安時代の灰釉陶器

土器・土製品・・・内耳鍋、かわらけ、フイゴ羽口（鍛冶炉の送風管）など

⇒ 陶磁器は、築城期（16世紀末）より古い15世紀代のものが複数みつかった。

二の丸は、2m以上
人の手で土を盛って造ったのだ！





版築状に盛られた整地（2 m以上） 土層壁面写真



調査区西壁 土層図

I 地点

調査の概要

外堀二の丸側裾部位置の確認のため、長さ3.5 m、幅2 m、深さ1.7 mのトレンチを掘削

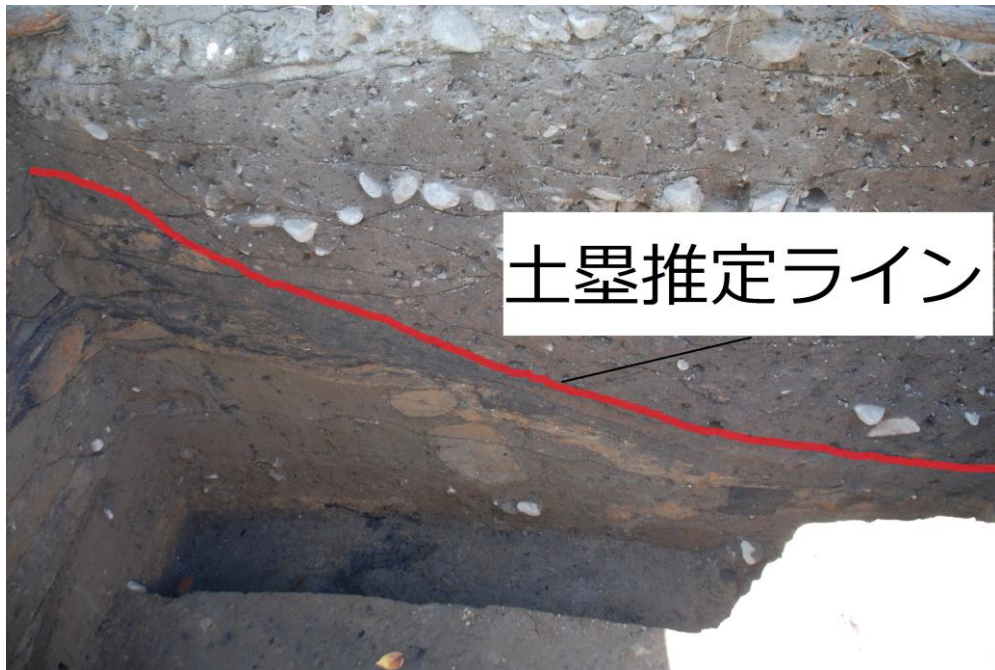
調査の成果

ア 土塁裾部と考えられる盛土層を確認した。

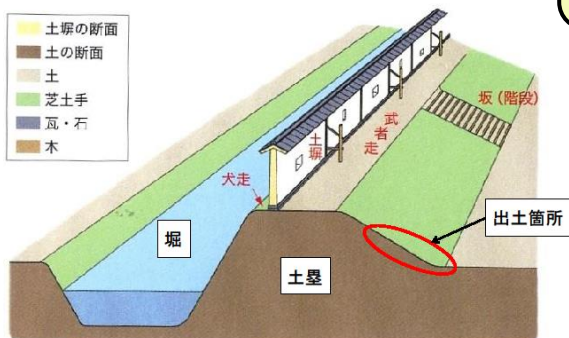
イ 土塁裾部末端に石積みを確認した。土層の観察から、土塁を構築した当初（築城期）には石段が無く、ある時期に改修して石段を設けた可能性が高い。

文献史料や絵図には、こうした石積みの記録は確認できず、今回の発掘調査で初めて明らかとなった。

- ウ 二の丸の生活面は、現地表下1.4 mで確認
- エ 出土遺物
 - 土器・・・内耳鍋、手づくねカワラケ皿（金属滓付着）
 - その他・・・金属滓、ヒデ鉢

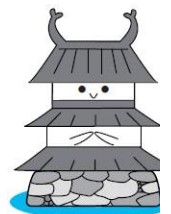


I 地点外堀土塁裾部 土層断面写真



堀と土塁の模式図
『城のつくり方図典』より抜粋

土塁の裾部には石積みがあったんだね！
崩落防止のねらいかな？



土塁裾部末端で検出された石積み

江戸時代以前の出土遺物



ヒレ部を差し込む
四角い穴の一部が
残る



出土した鯰瓦の破片



松本城南西隅櫓鯰瓦 松本市立博物館所蔵

この鯰瓦は、明治 14 年に
南西隅櫓を取り壊した際
に、市民が大事に保管して
おり、昭和 9 年に博物館に
寄贈されたものです



おろし皿の破片
皿の内面におろし目が残る



城主・水野氏の家紋
たちおもだか
(立沢瀉紋)が入った瓦



中国製染付碗 (青花)

(2) 明治維新时期以後の調査結果

旧制松本中学校について

明治18年(1885)11月には、二の丸の古山寺御殿跡(現・松本市立博物館)に旧制松本中学校(現・松本深志高校)の校舎が建てられました。昭和3年(1928)の二の丸の測量図をみると、西側へ校舎をかなり拡張している様子がうかがえます。その後、昭和10年には、現在の松本深志高校の位置に移転しています。



明治～大正期の石段

E地点南東隅では、石の階段が発見されました。ここから出土した遺物は明治末～大正時代にかけてのものであるため、旧制松本中学時代に使われていた階段と考えられます。

維新时期以後昭和10年までは、二の丸が学校用地として利用されていたことがわかります。

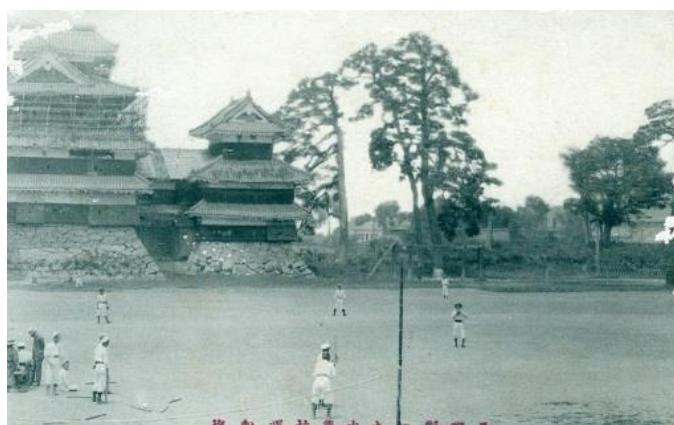


左半部が旧制松本中学校の校舎(現・松本市立博物館の位置)

<明治時代以降の出土遺物>



出土した校章入りのボタン
(トンボの下に「中」の文字)
現・松本深志高校に受け継がれているトンボのデザイン



運動場として使用していた本丸御殿跡での野球風景



ガラス製のメダル
バットのような図柄に
「B組」の文字が見える

3 調査のまとめ

(1) 想像以上の盛り土を確認

今回調査を行った二の丸の南西部は、人為的に2 m以上の版築状の丁寧な盛り土によって造られていた。

(2) 周辺には築城以前にさかのぼる古い遺跡があったかも・・・

盛り土の中からは、松本城築城期（文禄2～3年頃 1592～93）よりも古い15世紀頃に作られた陶磁器が出土した。整地土を運んできた場所には、築城以前にさかのぼる古い時期の遺跡が存在していた可能性がある。

(3) 土塁裾部に記録に残っていない石積みを発見

I地点では、土塁二の丸側の裾部を確認した。裾部の端部では、石積みを検出した。

<参考資料>



埋められる前の南外堀の様子がわかる絵葉書（明治41年11月6日の消印）

土塁が削平されており、旧制松本中学校の渡り廊下が見える

『信州松本絵葉書集成』書肆秋桜舎 刊より転載

松本城三の丸跡土居尻第9次調査

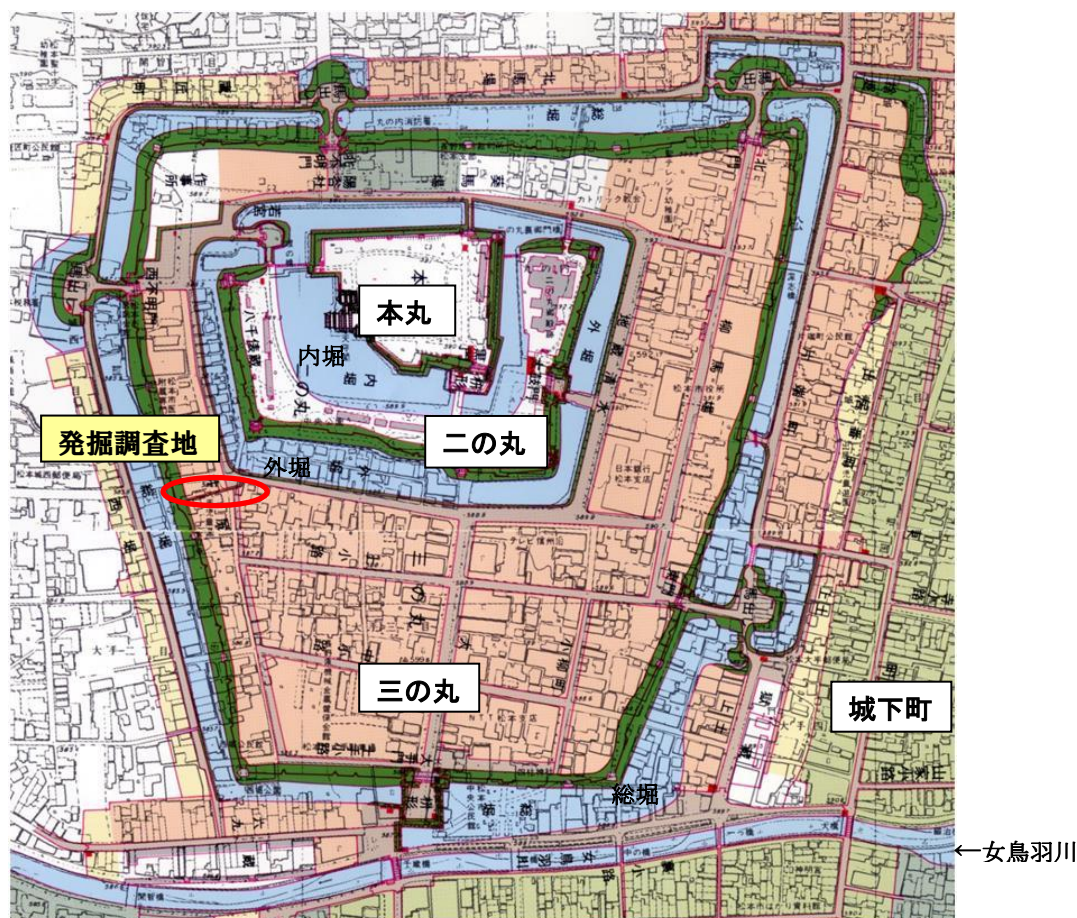
発見！350年以上使われ続けた松本城の石組水路

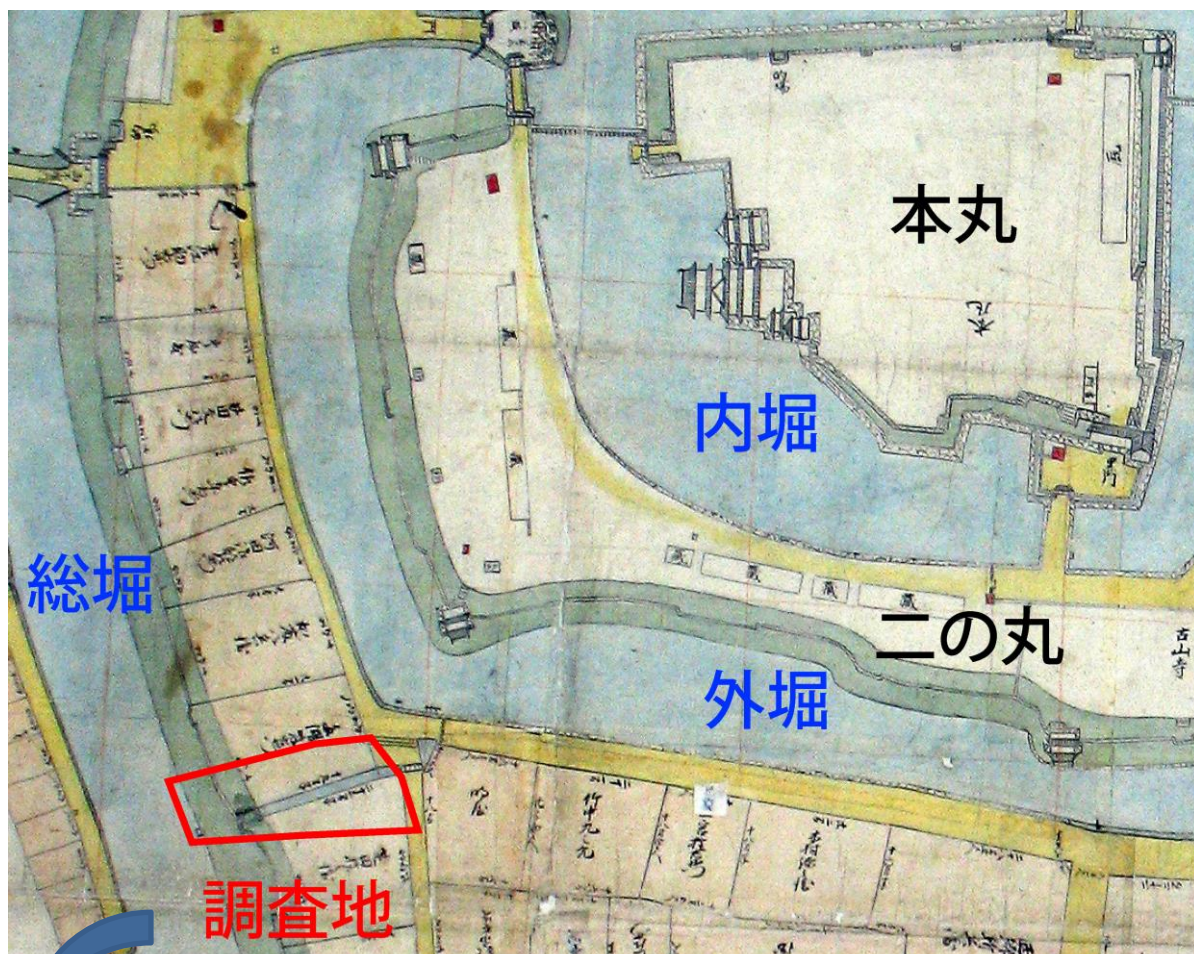
1 調査地の概要

- (1) 遺跡の所在 松本市大手
- (2) 調査の目的 都市計画道路・内環状北線整備事業に伴う緊急発掘調査
- (3) 調査期間 平成28年10月～平成31年3月(予定)
- (4) 調査面積 約1,800㎡
- (5) 調査地の位置



松本城は本丸・二の丸・三の丸と、それぞれを囲む3重の堀（内堀・外堀・総堀）を設けた城郭と、その外側の城下町で構成されています。今回の調査地は三の丸の西端にあたり、中～上級武家の屋敷地や総堀土塁のほか、外堀の水を総堀へ排水する石組水路が発見されています。

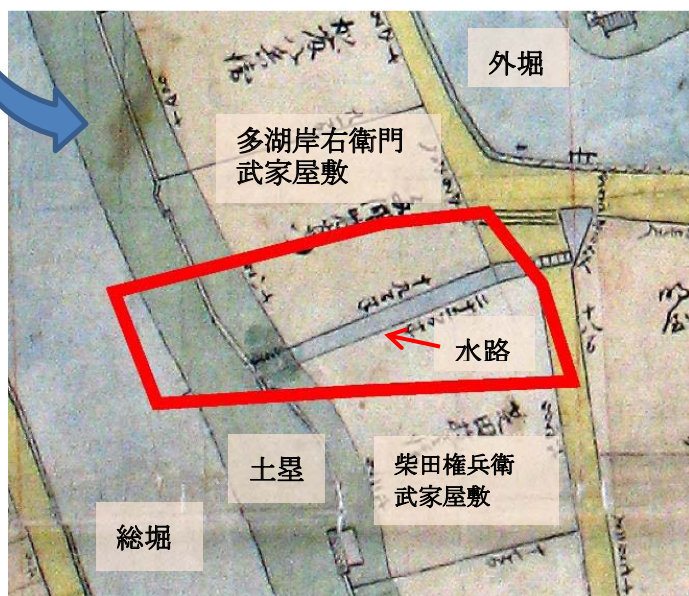




絵図上の調査地の位置

「享保十三年秋改松本城下絵図より(1728)

下図は部分拡大



水路北側：多湖岸衛門（250 石）

水路南側：柴田権兵衛（250 石）

水路は、外堀から武家屋敷地の間を通り、総堀土塁を抜けて総堀に接続していた。

絵図には、総堀から城下町外に向けた水路が複数箇所描かれている。

2 調査の結果

(1) 発見された遺構

ア 石組水路

- ・松本城の堀はすべて水濠 ⇒ 排水処理を施す必要がある
今回発見された石組み水路の用途・・・外堀の水は総堀へ流す
- ・絵図に記載のある水路が実在 ⇒ 遺構として確認
- ・開設時期・・・いつ水路が設けられたのかは記録に残っていない
松本城の築城期に設けられたものか？
- ・水路が埋められたのは？・・・下水配管図や出土遺物から昭和30年頃に埋められた



改修しながら350年以上使われてきた水路



調査地全景 東から



石組水路廃絶時の石組（断面に土管が見える）



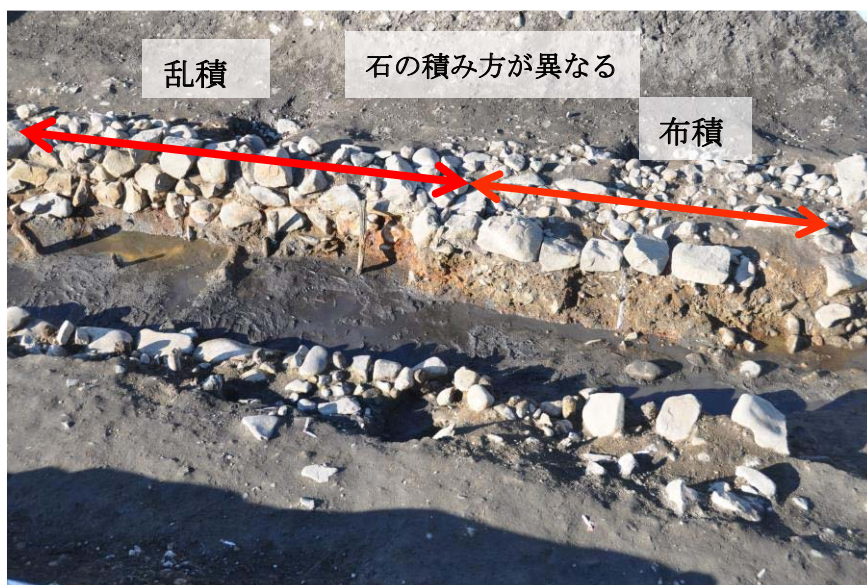
石組が複数列確認できる

様々な石の積み方



谷積 (落積)

石材を斜めに積み上げている石積。石材自体の重みの荷重がかかった状態で設置できるので、比較的安易に施工できる。幕末期以降に多用された石の積み方。



乱積

石材が不揃いで、横目地（石の横方向の輪郭線）が通っていないもの

布積

石材を横方向に並べて据え、横目地が通るように積んだもの



積み方にバラエティー
同じ石列であっても
使用している石の形・
積み方が異なる



改修した痕跡か？



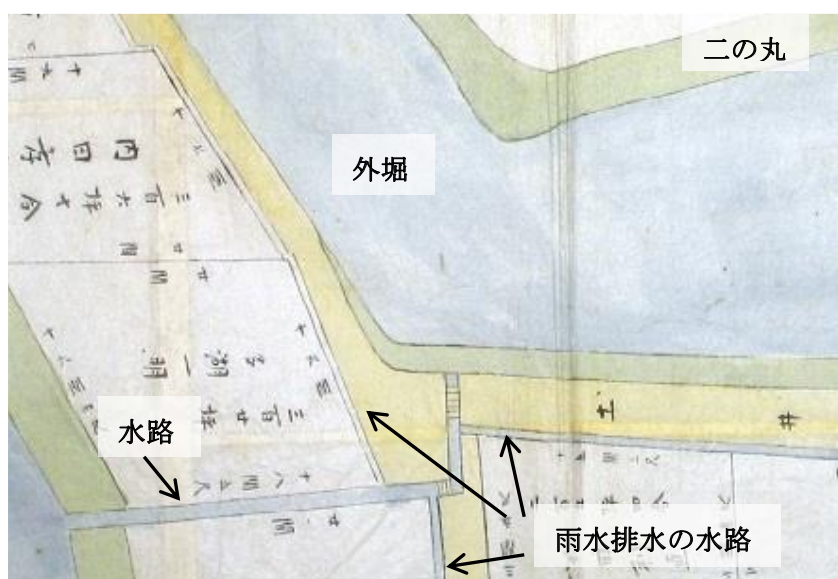
裏込石

石積の背後には、排水のための裏込め石が入れられている



直交する石組水路

外堀から総堀に堀の水を流す水路に、三の丸内の雨水排水の石組水路が直結している部分



「筑摩郡松本図面三枚ノ内」

明治6～9年時の三の丸付近の武家地が描かれたもの。

外堀水路に三の丸武家地の雨水排水も流している。

発見された水路は、外堀の排水・水位調整だけでなく、三の丸内の雨水排水も処理する役目もあったようである。

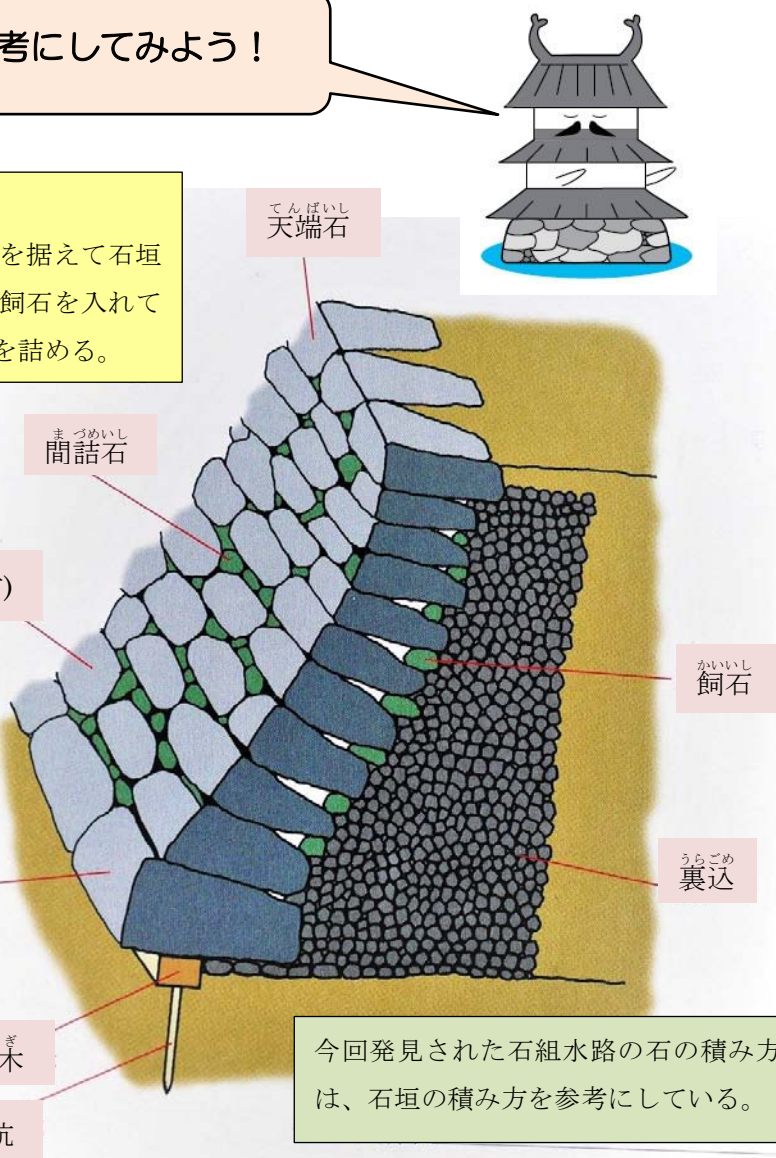
石組水路の構造

石垣の構造を参考にしてみよう！

<参考 石垣の構造>

胴木を敷き、その上に根石を据えて石垣の基礎とする。築石の後方に飼石を入れて固定し、背後には裏込の小石を詰める。

石垣は、表面に見えている石材より裏側の見えない部分の石材が多く、いかに崩れないかという工夫がされています。



<土居尻 9 次の石組水路 断面写真>

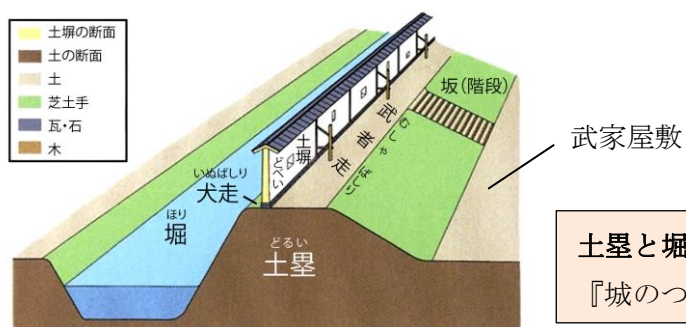


イ 土塁の痕跡

- ・調査区西端には維新时期以降に削平された総堀土塁があった。
土塁規模：西総堀土塁公園を参考にと 幅約16m、高さ約3m
- ・土塁の基盤土をトレンチで確認したところ、予想と異なる土層を確認
土塁構築時には、窪みまたは溝状になっていた可能性がある
- ・今後の調査で面的に広げた時に様相を確認する予定



総堀・土塁・石組水路・武家屋敷
の位置関係 (写真奥が西側)



土塁と堀の構造模式図
『城のつくりかた図典』より (一部改変)

(2) 出土遺物

- ・ 石組水路からは、水路廃絶時のものと考えられる戦時下～昭和20年代の生活用品が出土
- ・ 武家屋敷からは、戦国時代末から明治期の遺物が出土



「オリンピック」と書かれた茶碗
(右から左へ書かれている)

昭和15年(1940)に開催が予定されながら中止となった「幻の東京オリンピック」を記念した茶碗とみられる



戦時下の兜 盃 かぶとさかずき

戦闘機に「皇軍」の文字
がみられる盃



こうした出土品は、石組水路の存続時期を裏付ける大事な資料だね！



「味の素」の瓶

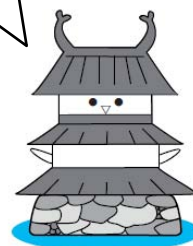
昭和26年(1951)に登場した味の素卓上型瓶第1号スタイルのもの

4 現時点でわかったこと

- (1) 発見された石組水路は、外堀の水位調整（排水）と三の丸内の排水機能の役割を担っていたものと考えられます。
- (2) 外堀が大正時代以降に埋められてからは、旧三の丸内の排水を流す水路へと役割が変わりました。松本市の下水配管図を確認した結果、昭和30年頃に水路の機能を終えて埋められ、土管の排水管へと変わったとみられます。
- (3) 石組水路がいつ設置されたかについては、現時点では不明ですが、築城時（戦国時代末）までさかのぼるとすると、350年以上にわたって繰り返し改修されながら使われてきた重要な遺構であると考えられます。



すごく貴重な水路
なんだね



石組水路の発掘作業風景



測量作業風景

松本の発掘40年を語る ―成果と課題、今後の展望―

1 松本市の遺跡発掘、大きな流れと画期

概要

(1) 遺跡発掘への関心の高まり

弘法山古墳の発掘と保存 (S49)

県町遺跡の市民発掘 (S54)

信濃国府の調査 (S57～61)

(2) 大規模開発と大発掘の時代

ほ場整備事業に伴う発掘 (S53～H7)

奈良井川西岸、中山、山辺、岡田本郷、芳川、内田
長野自動車道の建設と発掘 (S60～62)

その後の大規模開発と発掘

工業団地、区画整理、道路、大規模店舗など

(3) 松本城三の丸跡、城下町跡の発掘のはじまり (H3～、H6～)

(4) 中世考古学と史跡の保護 (H20～)

2 注目される発掘・発見

(1) 弘法山古墳の発見 (S49)

(2) 下神遺跡の奈良三彩、南栗遺跡の銅椀、三間沢川左岸遺跡の銅印 (S58・60)

(3) 長野自動車道の発掘と奈良井川西岸の遺跡群 (S60～62)

(4) 南方古墳の発見 (S63)

(5) 針塚古墳の発掘 (H1)

(6) 平田里古墳の発掘と埴輪の発見 (H3)

(7) 市街地の地下に残っていた江戸時代 (H3)

(8) エリ穴遺跡の耳飾り・人面付土版 (H7)

(9) 深志城の堀 (H10)

(10) 殿村遺跡の石垣 (H20)

(11) 井川城の居館跡 (H25)

3 わかったこと、まだわからないこと

(1) 低地の縄文遺跡：大村塚田、南栗、牛の川、宮渚本村

- (2) 弘法山古墳の周辺：古墳を支えた遺跡、中期の古墳、
- (3) 中山古墳群を造った人々：出川・寿方面、筑摩・神田方面
- (4) 窯業・製陶業の遺跡：岡田町・宮の前、鍬形原
- (5) 古代の松本と水（水を求めて、排水と導水、洪水と遺跡）
 - 初期・中期の弥生：境窪、横山城、百瀬、県町、宮淵本村
 - 湿地帯への進出：出川西、天神西、高宮
 - 導水の視点：奈良井川西岸、薄川扇央、田川と奈良井川の間、和田西原
 - 激しい洪水の痕跡：百瀬、県町
- (6) 松本の繁栄（国府、信府）
 - 平安時代の緑釉、江戸時代の高級陶磁器、整地を繰り返す都市
- (7) 市内各地区ごとの開発の歴史を探る

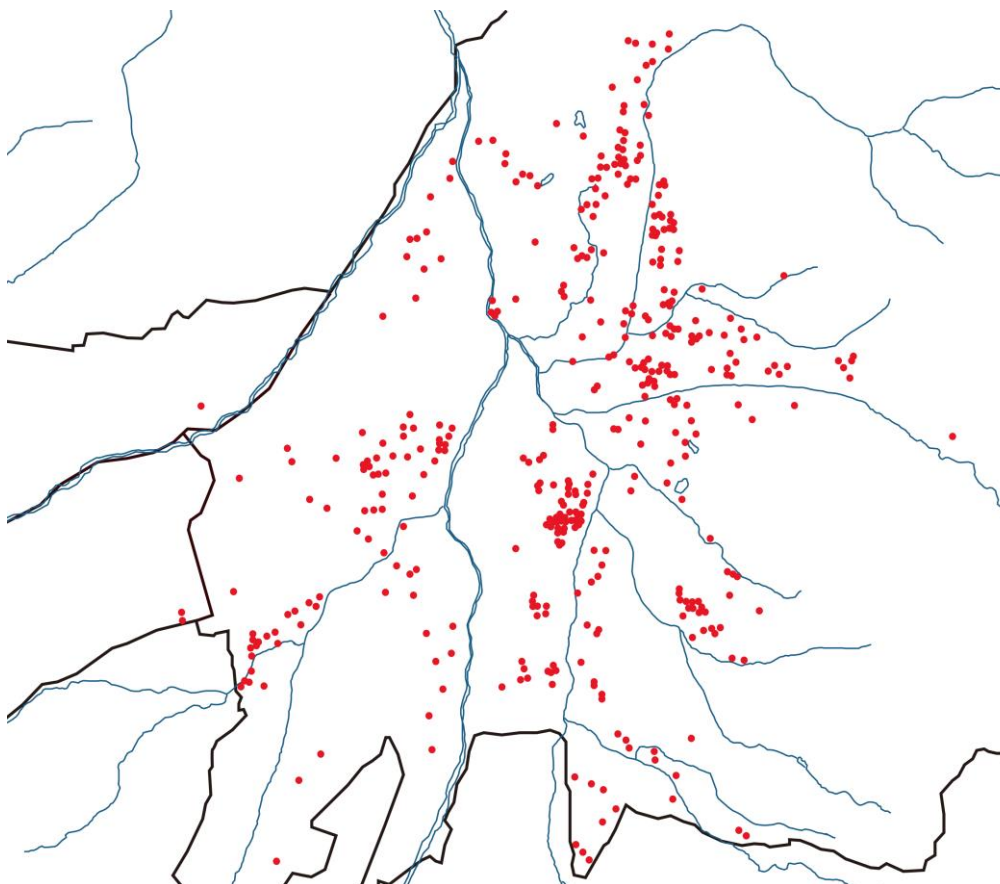
4 これからの発掘と考古学の課題、史跡の保護

まだまだ続く開発と発掘

遺跡が「ある」、「ない」の理由・原因を究める

過去の発掘データの報告と再検討

弘法山古墳、国府、小笠原氏城跡と松本城



S53 以降の発掘調査地点（松本城・城下町関連を除く）